

私の大好きな言葉

- 東京都中央区立日本橋中学校での講演から -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに - 「段取り八分」 -

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

「段取り八分」という言葉があります。これは、ものごとをするときには事前の準備が非常に大切であるという意味です。来年の 2010 年はどのようなことをしようかという計画は、年が明けてから立てたのでは遅すぎるように思います。今日は 12 月 5 日ですので、今年うちに 2010 年の段取りつまり計画を立て、新しい年を迎えていただくようお願いいたします。景気が悪く厳しい状況が続きますが、それに負けないような素晴らしい自分自身の計画を立てていただければと思います。

2. 日本橋中学校での講演

(1) 命と心の時間

ところで、私は 11 月 27 日(金)に東京都中央区にあります日本橋中学校に招かれ、「命と心の時間」の授業を担当させていただきました。1 年生から 3 年生までの生徒の皆さん、保護者の皆さん、先生方を合わせて 500 名弱の方々に、体育館でお話をさせていただきました。

私も非常に勉強になりましたので、本日の放送で紹介させていただきます。

「命と心の授業を」との要請でしたので、どのようなお話をしようかといろいろ考えました。私は足利市の出身ですので、同じく足利市出身で日本中の人々に感銘を与えるような素晴らしい活躍をなさった相田みつを先生の言葉、また、そのほかの私の大好きな言葉を紹介させていただきながら、授業を進めることにしました。

(2) 「一生勉強、一生青春」 - 「ゆっくり歩きながら考えよう」 -

私の大好きな言葉である「一生勉強、一生青春」などを紹介し、加えて私の中学校時代から大学時代までのエピソードをはさみながら、「ゆっくり歩きながら考えよう」というお話をさせていただくことにしたのです。

現代は、少子高齢化社会です。子供が少なくなることは決して望ましいことではありませんので、ぜひお子さんを産み育てていただきたいと思います。一方で、長生きできるということは素

晴らしいことです。「人生は105歳」、健康に気を配っていれば誰でも105歳まで長生きすることができる社会になりました。ですから、ゆっくり歩きながら考えればよいのではないかというのが、私のお話の主旨です。これは、「一生勉強し続けて一生青春時代を送ろう、そうすればいつまでも若々しく生きられて充実した人生が送れる」ということです。

(3)「ブルドック魂」 - 「食いついたら離すな」 -

私は、中学校時代に足利市立山辺中学校で学びました。2・3年生の時のクラス担任であった岡田忠治先生から「食らいついたら離すな。ブルドック魂で頑張れ」という素晴らしい言葉を教えていただきました。今のブルドックは可愛い感じがしますが、昔は一度食いついたら離さないような獰猛なイメージがありました。ですから、岡田先生は「ブルドックのように食いついたら離さない心構えでものごとに取り組み」ということを教えて下さったのだと思います。

(4)「練習で泣いて試合で笑え」

また、私は部活動で柔道をしていました。柔道部の監督であった椎名弘先生からは、「練習で泣いて試合で笑え」という厳しい言葉を教えていただきました。「練習は厳しいけれどもそれを続けていると、試合では素晴らしい結果を得ることができる」という意味です。

(5)「練習は不可能を可能にする」

慶應義塾大学の小泉信三先生も同じようなことをおっしゃっていました。「練習は不可能を可能にする」という言葉で、「何事も最初はうまくできないけれども、練習をすることでできるようになる。だから頑張るってやるように」という教えです。小泉先生はテニス部の監督でしたので、テニスに関して言ったのでしょうが、何をやるにあたっては当てはまると思います。

また、小泉信三先生は、「練習は不可能を可能にする」という考えの他に、「フェア・プレイ」の精神と「よき友」がスポーツにより得られると教えて下さいました。

(6)「自他共栄」

椎名弘先生からは「自他共栄」という言葉も教えていただきました。「自分も他人も共に栄えよう」という意味で、講道館の創設者である嘉納治五郎先生の言葉です。

(7)「一所懸命」

私は、高校時代は栃木県立足利高校で過ごしました。当時の足利高校のマラソン大会の合い言葉が「一所懸命」でした。今は「一生懸命」と書くことが多いですが、合い言葉は「一所」となっていました。「一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組み」という意味で、それを染め抜いたハチマキを巻いて10kmの長距離を走りました。私は、この「一所懸命」という言葉も大好きです。

(8)「法律を学んだ人はいつも最悪の事態、一番悪いときの状況を予想しながらものごとを考えるように」

大学は慶應義塾大学の法学部に行き、法律を学びました。そこで峯村光郎先生から「法律を学んだ人はいつも最悪の事態、一番悪いときの状況を予想しながらものごとを考えるように」と教わりました。よいことのみを考えていたのですが、最悪の場合はどのようになるのかを考えていると事故や事件に遭うことが少なく、他人に迷惑をかけることも少なくなるという教えです。

また、先生からは「外国人の友達と仲良くなるための一つの方法は、バースディカードとクリスマスカードを送ることだ」とも教わりました。クリスチャンの方が多いためかもしれませんが、心を通わせるためにはバースディカードとクリスマスカードが欠かせないということでした。

(9)「目には遠いが、心は近い」

インドのことわざに「目には遠いが、心は近い」があります。「離れた所に住んでいて目には遠いけれども、友達同士の心は近くにあり互いに思い合っている」という意味です。これを維持するためにはカードを出すことも大切なのではないかと思います。

(10)「注意一秒、怪我一生」

大学では犯罪学も学びましたが、犯罪学の先生である宮沢浩一先生から教えていただいた言葉は「注意一秒、怪我一生」です。注意を怠ると、それがもとで怪我が一生にわたってよくない影響を与えることになるという意味です。

3. おわりに

11月27日の日本橋中学校の授業では、以上のような言葉をもとにお話をさせていただきました。

- 2010年7月18日校正 -